

連結貸借対照表

(平成30年3月31日現在)

(単位:千円)

科目名	金額	科目名	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	124,626,438	固定負債	48,807,823
有形固定資産	113,720,580	地方債等	28,417,420
事業用資産	64,424,983	長期未払金	5,925,310
土地	42,643,902	退職手当引当金	3,737,503
立木竹	-	損失補償等引当金	-
建物	48,838,025	その他	10,727,591
建物減価償却累計額	-30,010,372	流動負債	5,753,524
工作物	2,569,427	1年内償還予定地方債等	2,807,176
工作物減価償却累計額	-790,391	未払金	1,794,815
船舶	1,420	未払費用	-
船舶減価償却累計額	-198	前受金	664
浮標等	-	前受収益	-
浮標等減価償却累計額	-	賞与等引当金	470,096
航空機	-	預り金	408,546
航空機減価償却累計額	-	その他	272,226
その他	1,488,819	負債合計	54,561,347
その他減価償却累計額	-504,378	【純資産の部】	
建設仮勘定	188,730	固定資産等形成分	127,358,815
インフラ資産	45,605,178	余剰分(不足分)	-45,055,123
土地	13,079,058	他団体出資等分	-
建物	3,973,585		
建物減価償却累計額	-2,277,485		
工作物	86,678,103		
工作物減価償却累計額	-56,050,067		
その他	-		
その他減価償却累計額	-		
建設仮勘定	201,984		
物品	7,517,525		
物品減価償却累計額	-3,827,107		
無形固定資産	373,218		
ソフトウェア	345,699		
その他	27,519		
投資その他の資産	10,532,640		
投資及び出資金	253,862		
有価証券	-		
出資金	253,862		
その他	-		
長期延滞債権	256,402		
長期貸付金	89,736		
基金	9,962,331		
減債基金	-		
その他	9,962,331		
その他	87		
徴収不能引当金	-29,778		
流動資産	12,238,600		
現金預金	8,119,548		
未収金	1,326,822		
短期貸付金	222		
基金	2,732,154		
財政調整基金	2,732,154		
減債基金	-		
棚卸資産	46,511		
その他	15,332		
徴収不能引当金	-1,988		
繰延資産	-	純資産合計	82,303,691
資産合計	136,865,038	負債及び純資産合計	136,865,038

連結行政コスト計算書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

(単位:千円)

科目名	金額
経常費用	72,905,611
業務費用	52,968,836
人件費	7,940,401
職員給与費	5,611,888
賞与等引当金繰入額	467,944
退職手当引当金繰入額	264,590
その他	1,595,979
物件費等	43,738,214
物件費	11,948,689
維持補修費	710,695
減価償却費	3,391,970
その他	27,686,860
その他の業務費用	1,290,220
支払利息	406,883
徴収不能引当金繰入額	31,305
その他	852,032
移転費用	19,936,776
補助金等	7,837,791
社会保障給付	10,898,354
その他	24,144
経常収益	47,990,034
使用料及び手数料	7,160,009
その他	40,830,025
純経常行政コスト	24,915,578
臨時損失	113,031
災害復旧事業費	95,521
資産除売却損	4,930
損失補償等引当金繰入額	-
その他	12,580
臨時利益	41,606
資産売却益	14,443
その他	27,163
純行政コスト	24,987,003

連結純資産変動計算書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

(単位:千円)

科目名	合計	固定資産等形成分	余剰分(不足分)	他団体出資等分
前年度末純資産残高	79,276,294	127,996,827	-48,720,532	-
純行政コスト(△)	-24,987,003		-24,987,003	-
財源	28,712,301		28,712,301	-
税金等	21,480,539		21,480,539	-
国県等補助金	7,231,762		7,231,762	-
本年度差額	3,725,299		3,725,299	-
固定資産等の変動(内部変動)		45,500	-45,500	
有形固定資産等の増加		2,719,856	-2,719,856	
有形固定資産等の減少		-3,451,884	3,451,884	
貸付金・基金等の増加		1,640,580	-1,640,580	
貸付金・基金等の減少		-863,053	863,053	
資産評価差額	-689,956	-689,956		
無償所管換等	6,444	6,444		
他団体出資等分の増加				-
他団体出資等分の減少				-
比例連結割合変更に伴う差額				-
その他	-14,390		-14,390	
本年度純資産変動額	3,027,397	-638,012	3,665,409	-
本年度末純資産残高	82,303,691	127,358,815	-45,055,123	-

連結資金収支計算書

自 平成29年4月1日
至 平成30年3月31日

(単位:千円)

科目名	金額
【業務活動収支】	
業務支出	69,425,074
業務費用支出	49,488,298
人件費支出	8,149,444
物件費等支出	40,132,957
支払利息支出	406,883
その他の支出	799,014
移転費用支出	19,936,776
補助金等支出	7,837,791
社会保障給付支出	10,898,354
その他の支出	24,144
業務収入	75,868,439
税収等収入	21,198,671
国県等補助金収入	6,725,399
使用料及び手数料収入	7,122,539
その他の収入	40,821,829
臨時支出	104,977
災害復旧事業費支出	95,521
その他の支出	9,457
臨時収入	27,163
業務活動収支	6,365,550
【投資活動収支】	
投資活動支出	3,609,050
公共施設等整備費支出	2,195,094
基金積立金支出	1,292,242
投資及び出資金支出	-
貸付金支出	121,684
その他の支出	30
投資活動収入	1,147,693
国県等補助金収入	573,111
基金取崩収入	421,451
貸付金元金回収収入	109,804
資産売却収入	40,202
その他の収入	3,126
投資活動収支	-2,461,357
【財務活動収支】	
財務活動支出	3,691,744
地方債等償還支出	2,894,098
その他の支出	797,646
財務活動収入	1,902,190
地方債等発行収入	1,867,051
その他の収入	35,139
財務活動収支	-1,789,554
本年度資金収支額	2,114,639
前年度末資金残高	5,738,819
比例連結割合変更に伴う差額	-
本年度末資金残高	7,853,458
前年度末歳計外現金残高	254,785
本年度歳計外現金増減額	11,305
本年度末歳計外現金残高	266,090
本年度末現金預金残高	8,119,548

注記

1. 重要な会計方針

(1) 有形固定資産及び無形固定資産の評価基準及び評価方法

①有形固定資産・・・取得原価

ただし、開始時の評価基準及び評価方法については、次のとおりです。

ア. 昭和59年度以前に取得したものの・・・再調達原価

ただし、道路、河川及び水路の敷地においては備忘価額1円としています。

イ. 昭和60年度以後に取得したものの

取得原価が判明しているもの・・・取得原価

取得原価が不明なもの・・・再調達原価

ただし、取得価額が不明な道路、河川及び水路の敷地は備忘価額1円としています。

②無形固定資産・・・原則として取得原価

ただし、取得価額が不明なものは、再調達原価としています。

(2) 有価証券及び出資金の評価基準及び評価方法

①満期保有目的有価証券・・・償却原価法（定額法）

②満期保有目的以外の有価証券

ア. 市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格（売却原価は移動平均法により算定）

イ. 市場価格のないもの・・・取得原価（又は償却原価法（定額法））

③出資金

ア. 市場価格のあるもの・・・会計年度末における市場価格（売却原価は移動平均法により算定）

イ. 市場価格のないもの・・・出資金額

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

①販売用土地・・・地方公共団体の財政の健全化に関する法律施行規則第4条第2項各号に掲げる方法

②貯蔵品・・・先入先出法による原価法

(4) 有形固定資産等の減価償却の方法

①有形固定資産（リース資産を除く）・・・定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物 15年～50年

工作物 8年～80年

船舶 4年

その他 4年～10年

物品 3年～17年

②無形固定資産（リース資産を除く）・・・定額法

（ソフトウェアについては、庁内における見込利用期間（5年）に基づく定額法によっています。）

③リース資産

ア. 所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

（リース期間が1年以内のリース取引及びリース契約1件あたりのリース料総額が300万円以下のファイナンス・リース取引を除く）

・・・自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法

イ. 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

・・・リース期間を耐用年数とし、残存価値をゼロとする定額法

(5) 引当金の計上基準及び算定方法

①徴収不能引当金

未収金については、過去5年間の平均不能欠損率により、徴収不能見込額を計上しています。

ただし、一部の連結対象団体においては、法人税法に規定する法定繰入率に基づく繰入限度額によっています。

長期延滞債権については、過去5年間の平均不能欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

長期貸付金については、過去5年間の平均不能欠損率により（又は個別に回収可能性を検討し）、徴収不能見込額を計上しています。

②退職手当引当金

期末自己都合要支給額を計上しています。

③損失補償等引当金

該当事項なし

④賞与等引当金

翌年度6月支給予定の期末手当及び勤勉手当並びにそれらに係る法定福利費相当額の見込額について、それぞれ本会計年度の期間に対応する部分を計上しています。

(6) リース取引の処理方法

①ファイナンス・リース取引

通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

②オペレーティング・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っています。

(7) 資金収支計算書における資金の範囲

現金（手許現金及び要求払預金）及び現金同等物（容易に換金可能であり、かつ、価値変動が僅少なもので、3か月以内に満期が到来する流動性の高い投資を言います。ただし、一般会計等においては、常滑市資金管理方針において、歳計現金等の保管方法として規定した預金等としています。）

なお、現金及び現金同等物には、出納整理期間における取引により発生する資金の受払いを含んでいます。

(8) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。

ただし、一部の連結対象団体（会計）については、税抜方式によっています。

(9) 連結対象団体（会計）の決算日が一般会計等と異なる場合の処理

該当事項なし

2. 重要な会計方針の変更等

該当事項なし

3. 重要な後発事象

(1) 主要な業務の改廃

該当事項なし

(2) 組織・機構の大幅な変更

該当事項なし

(3) 地方財政制度の大幅な改正

該当事項なし

(4) 重大な災害等の発生

該当事項なし

4. 偶発債務

(1) 保証債務及び損失補償債務負担の状況

他の団体（会計）の金融機関等からの借入債務に対し、保証を行っています。

（単位：千円）

団体(会計)名	確定債務額	履行すべき額が確定していない損失補償債務等		総額
		損失補償等引当金計上額	貸借対照表未計上額	
常滑土地改良区	0	0	249,218	249,218
計	0	0	249,218	249,218

(2) 係争中の訴訟等

該当事項なし

5. 追加情報

(1) 連結対象団体（会計）

団体(会計)名	区分	連結の方法	比例連結割合
国民健康保険事業特別会計	地方公営企業会計	全部連結	—
後期高齢者医療特別会計	地方公営企業会計	全部連結	—
介護保険事業特別会計	地方公営企業会計	全部連結	—
水道事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
病院事業会計	地方公営企業会計	全部連結	—
モーターボート競走事業特別会計	地方公営企業会計	全部連結	—

連結の方法は次のとおりです。

① 地方公営企業会計は、すべて全部連結の対象としています。

ただし地方公営企業法の財務規定等が適用されていない地方公営企業会計のうち当該規定等の適用に向けた作業に着手しているもの（平成29年度末までに着手かつ集中取組期間内に当該規定等を適用するものに限ります。）については、連結対象団体（会計）の対象外としています。したがって、一般会計等における他会計への繰入金等が内部相殺されない場合があります。

農業集落家庭排水処理施設特別会計	他会計繰入金	122,270 千円
下水道事業特別会計	他会計繰入金	1,054,217 千円

(2) 出納整理期間

地方自治法第235条の5に基づき出納整理期間が設けられている団体（会計）においては、出納整理期間における現金の受払い等を終了した後の係数をもって会計年度末の係数としています。

なお、出納整理期間を設けていない団体（会計）と出納整理期間を設けている団体（会計）との間で、出納整理期間に現金の受払い等があった場合は、現金の受払い等が終了したものとして調整しています。

(3) 財務書類の内容を理解するために必要と認められる事項

① 千円未満を四捨五入して表示しているため、合計金額が一致しない場合があります。